学校番号	3028

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「詳述歴史総合」（実教出版）						
副教材等	「グローバルワイド最新世界史図表」（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史の授業は、学んだことを記憶する無味乾燥な時間ではありません。史資料の読み解きを通して、過去の出来事を理解する営みを、担当者とともに共有することで、歴史学の片隅に触れ、自分の歩むべき「道」を発見することができます。教室に集う全員で知的協働を行い、豊かな時間をつくりましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】　史資料の読み解きに基づいて、世界の歴史と日本の歴史を相互連関的にとらえ、歴史的諸事象と現代社会の諸事象の関係性を適切に整理、理解できる。
【思考力、判断力、表現力等】　世界および日本の歴史を相互連関的かつ多面的、多角的にとらえるため、基本的な知識や史資料を使いながら生徒間でペアワーク、グループワークを行い、グローバルな視点と柔軟な思考力を身につける。また、与えられたテーマに沿って発表を行うことで、自らの考えを他者にうまく発信する表現力を高める。
【学びに向かう力、人間性等】　歴史総合の授業を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的、多角的な考察を通して日本国民としての自覚を高め、他国を尊重することの大切さについて思考を深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代史の諸事象について、世界の中の日本を意識しながら、史資料を通してとらえ、適切にまとめる力を育成する。また、現代社会の諸事象との関連を考察する重要性を認識させ、そのために必要な技能を養う。	変化の激しい近現代史の諸事象の意義、特色について、多面的に考察しつつ、あるテーマや概念に沿って整理する活動を通して、思考力と判断力を育成する。また、同様の活動の中で議論の場を設定することにより、自らの思考を効果的に説明する表現力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的、多角的な考察を通して、日本国民としての自覚を高め、他国を尊重することの大切さについて、思考を深めさせる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期Ⅰ	歴史の扉	①　歴史と私たち ②　歴史の特質と資料	a:基本的な歴史資料の扱う基礎知識や技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
前期Ⅱ	近代化への胎動	①　近代化への問い ②　ヨーロッパの海外進出 ③　清の繁栄 ④　東アジアの貿易 ⑤　江戸時代の特質	a:ヨーロッパの海外進出に伴う、アジアや日本の歴史的変動に関する知識や資料読解の技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
前期Ⅲ	市民革命と国民国家	①　英米仏の革命 ②　ウィーン体制 ③　19 世紀の西欧諸国 ④　東欧とロシア ⑤　アメリカ合衆国の発展 ⑥　世界市場形成	a:各国の市民革命や国民国家形成のあり方に関する知識や資料読解の技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
前期Ⅳ	アジアの変容と日本	①　イスラーム世界の改革 ②　東南・南アジアの改革 ③　アヘン戦争の影響 ④　日本の近代化と世界	a:欧米諸国の海外進出に対するアジア諸国の改革について理解できている。また、世界あるいはアジアの中の日本の近代化の特質に関する資料読解の技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価

前期 Ⅴ	帝国主義の時代	①　帝国主義と世界分割 ②　帝国主義と欧米社会 ③　帝国主義時代の日本 ④　アジア地域の民族運動と改革	a:帝国主義の特質を多面的に理解できている。また、世界の中の日本帝国主義の特質や、これがアジア諸国に与えた影響に関する資料読解の技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
前期 Ⅵ	第一次大戦と大衆社会	①　第一次世界大戦 ②　ロシア革命 ③　ヴェルサイユ体制 ④　ワシントン体制と日本 ⑤　アジアの民族運動 ⑥　戦間期の欧米諸国 ⑦　社会運動と日本 ⑧　民主政治と日本	a:第一次大戦後の国際秩序の特質を理解し整理できている。また、日本国内の政治・社会・対外政策の変化がアジア諸国や国際社会に与えた影響に関する資料読解の技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
前期 Ⅶ	経済危機と第二次世界大戦	①　世界恐慌とファシズム ②　日本の軍部の台頭 ③　世界大戦と民衆 ④　アジア太平洋戦争と民衆 ⑤　国際連合と冷戦 ⑥　日本の民主化と憲法 ⑦　朝鮮戦争と日本	a:第二次大戦の背景・経過および戦後の国際秩序構築過程について理解し整理できている。また、敗戦を経た戦後占領期の日本が、冷戦構造から受けた影響に関する資料読解の技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価

後期Ⅰ	冷戦と脱植民地化	①　冷戦の推移 ②　第三世界の出現 ③　東西両陣営の動揺 ④　日本の国際社会復帰 ⑤　日本の高度経済成長	a:冷戦期の国際社会の変動と日本の国際社会復帰過程の関連性について理解したうえで、資料読解の技能も身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
後期Ⅱ	多極化する世界	①　石油危機と世界経済 ②　冷戦終結と地域協力 ③　経済大国化する日本	a:冷戦終結に向けて多極化が進む世界における日本の国際的地位の変化について理解したうえで、資料読解の技能も身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつける、主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
後期Ⅲ	グローバル化した現代世界	①　地域紛争と世界経済 ②　グローバル化の功罪	a:頻発する地域紛争について理解できている。また、グローバル化の光と影を示す諸資料を読み解く技能が身についている。 b:世界の中の日本を意識して、歴史的事象を整理できている。 c:歴史的学びを現代社会の課題解決に結びつけながら、現代社会の課題について積極的に発言し議論する主体的態度が見られる。	定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度